

# イソスミレの種子発芽特性－温度と光の影響に着目して

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

黒田有寿茂



砂浜や砂丘に成立する海浜植生は、特に 1900 年代以降、人工護岸化や様々な土地利用の拡大により大きく縮小してきました。その影響で多くの海浜植物が減少し、絶滅危惧種に指定されるものも増えてきています。本州と北海道の日本海側を主な分布域とするイソスミレ *Viola grayi* もそのような種の一つで、各地で存続が危惧されています。

種子の温度・光条件に対する反応を調べ、その休眠・発芽特性を明らかにしていくことは、いつどのような環境下で発芽・出芽し、定着へと至るのか理解していく上で大変重要です。また、そうした生活史や生育立地に関する情報は、絶滅危惧種の保全方法を検討していく際にも不可欠です。そこで右写真のような機器を用い、様々な温度・光条件を設定して発芽試験を行っています。



イソスミレの花と果実・種子

花期は 4 月から 5 月。果実は蒴果。5 月上旬頃より果皮が裂開し、種子が散布される。その後、閉鎖花が秋頃までつく。地上の茎葉は冬季に枯れるが、秋季以降に株元に現れる葉は越冬する。



温度勾配恒温機

庫内は複数のスペースに分かれており、異なる温度条件の試験を同時に進めることができる。右側の機器は恒温条件だけでなく、20℃14 時間、10℃10 時間のような変温条件も設定できる。